

自由民主党 県議会議員 笹川博義 県政報告

笹川ひろよし後援会

〒373-0818 群馬県太田市小舞木町270-1
TEL.0276-46-7424 FAX.0276-49-2367
ホームページアドレス <http://www.sasagawa-hiroyoshi.com/>
自由民主党群馬県支部連合会
前橋市大手町1-13-14 TEL.027-223-1515

今年も推進します 「暮らしの安心育てる安心 学ぶ安心」のまちづくり

昨年も皆様には大変お世話様になりました。改めて深く感謝申し上げます。有り難うございました。さて、平成二十年は平穏な年であってほしいとの、多くの人たちの願いも空しく、世界同時不況・

厳しい時代の政治の責任



私自身、五月定例会、十二月定例会において、学び舎の耐震化・救急医療体制の充実、子ども医療費無料化、雇用対策、農業振興、浄化槽対策などについて一般質問をさせて頂きました。

金融不安、急速に悪化する雇用環境、深刻化する医師不足、脅かされる食の安全など、私たちの生活の行く末を案じる出来事ばかりで、政治の責任は非常に重いものと感じさせる年でもありました。

私立幼稚園の耐震化 全国水準より低い群馬県 県は補助の拡大を

補助を行うことに決まりました。耐震診断及び耐震補強工事の経費に対して、補助の拡大と補助が受けられない木造施設や小規模な耐震補強工事も補助されることになりました。また、避難所としても使われる県立高校も耐震工事をスビドアップする事となり(七校・桐生女子、伊勢崎興陽、館林富岡実業、板倉、勢多農林、大泉耐震補強設計委託一校・板倉)、今年度予算に約四億八千万円を計上することになりました。

を安定出荷する産地を県が指定する。もの。この制度は、すでに二十年以上が経過しました。これを発展的見直しを行い、ブランド力の強化を図るべきと要望させて頂きました。結果、本年一月に県もブランド推進室中心に制度の見直しとぐんまブランド全般についての検討を行うと発表致しました。

汚水処理人口普及率の遅れを指摘 県は積極的に取り組む

群馬県は六五・八パーセントの普及率です。特に東毛地区の遅れ、太田市、とりわけ鞍塚地区への対応を指摘させて頂き、この地域の向上が全体の底上げにつながる事を指摘させて頂きました。平成二十一年度までで九十九パーセントに向上するため、県は平成二十一年度予算において、下水道事業と合併浄化槽推進事業・農業集落排水事業などに対して、積極的に取り組む事となりました。

特別委員会では、決算特別委員会に所属する事となり、県政全般に渡り様々な事を学ぶ機会に恵まれました。とくに、決算特別委員会最終日には、自民党を代表し、三十四分の総括質問(県立病院包括外部監査結果報告・水質保全対策事業・国際観光県ぐるま事業など)について質問を致しました。

十二月定例会では、金子一郎県議(前橋市)が十一月にご逝去なさいましたので、その後任として議会議改革検討委員会委員に選ばれ、身の引き締まる思いでありました。

平成二十年五月の議会で公立学校並びに私立幼稚園・保育園舎の耐震化について質問させて頂きました。特に、私立幼稚園の耐震化は全国平均にくらべ、群馬県は低い水準です。市町村にもバラツキがみられ、また、各園も経営状況が厳しい中で、思うように耐震診断ならびに耐震補強は進まないのが現状です。園児達の安心・安全の為に、対策が急がれるところでありましたが、県としても「緊急度が高い」とし、九月補正及び平成二十一年度予算において

産地偽装問題や食の安全が注目を集めたが、県としても巡回指導をはじめ、食材の地産地消に取り組んでおります。食材は、まれば生産者の顔の見えるものでなければなりません。どこで、どのように作られているのか、を知ることによって食育にもつながります。また、産地の農業振興につながります。そういった理由から地産地消拡大を要望しました。今、問題になっている学校給食費の未納問題について、県としては、学校と家庭の信頼関係を大事にし、適正な事務マニュアルを通しての取り組みとなります。しかし、未納は保護者の問題であって、子供たちには影響が及ばないよう細心の注意をはらって頂きたい、と強く要望させて頂きました。

平成二十年も様々な出来事を経験させて頂きました。その経験を踏まえ、本年も尚一層、気を引き締めて「暮らしの安心・育てる安心・学ぶ安心」に向けて努めて参りますと同時に、生活全般が厳しい年であることを肝に銘じて、身近な問題から県政全体の問題に全力で取り組んでゆく決意です。

皆様には、今後とも尚一層のご指導、ご鞭撻賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

ブランド力の強化

「Gブランド」について。県農産物のブランド戦略として「Gブランド」認定があります。これは、「品質の良い園芸農産物



救急医療体制の充実が切実な願い

足利日赤病院との連携の強化を

■救急医療体制と子ども医療費無料化拡大について。

救急医療体制の充実には年齢を問わず切実な願いです。しかし、日本の医療の現実には、皆様の思いとはかけ離れたものになっております。

軽症者から重症者まで、すべての救急患者を受け入れ、初期診断を行い、専門医に振り分けるシステム・施設があります。ER施設です。

太田地区では、北関道の開通とインターチェンジ(太田藪塚・太田桐生IC)の設置で、救急医療機関までの三十分圏内といわれる地域が拡大しました。太田市から前橋までの時間は、本当に短くな



子育て支援

子ども医療費の無料化について

りました。やはり、交通の便のいい所、すなわちインターチェンジの近くに救急医療施設(前橋赤十字病院の移転)をつくってもらいたい、と県に要望しました。また、新生児集中管理室の増床と充実も合わせて要望させて頂きました。

子ども医療費無料化へ(中学3年生まで)

子育て支援策ならびに少子化対策など重要な課題ととらえ、子ども医療費の無料化の拡大について大澤知事に伺いました。

「県の基本政策として、この問題に取り組み姿勢にいささかも揺るぎもありません。市町村長と合



意形成に向けて引き続き努力してまいります」と答弁をいただきました。

無保険の子どもへの対応

子どもが病気になっても安心して医療が受けられるように

■無保険の子どもへの対応について。国民健康保険の保険料が滞納した親などに保護者が保険証を返還し、無保険状態になった中学生以下の子どもたちが約三万三千人(厚労省の全国調査)。群

相談窓口の強化

■雇用環境について。雇用環境は危機的状況にありま

犯罪の防止へ

■安心・安全なまちづくりに関連して、警察官舎の耐震化についても質問しました。現在、百七十八棟ありますが、その半数の八十九棟が昭和五十八年以前の建物です。中でも耐震改修促進法の特

県議会所属委員会	
産業経済常任委員会	副委員長
決算特別委員会	委員
予算特別委員会	委員
議会改革検討委員会	委員

編集後記

「安心」をキーワードに、政治活動を行ってきました。どんな厳しい時代にあっても、生活基盤がしっかりして、子育てが出来、学ぶ環境があれば、人は希望をもって前進できると思うからです。江戸時代に、山本常朝(つねと)の談話を記録した「葉隠」には、武士の心構えとして、「只今がそのとき、そのときが口今」という教訓があります。主君が必要とされるまさに「そのとき」にお役にたたなければならないのです。政治家に置き換えてみても、県民の皆様が、求める「そのとき」に迅速に対応してこそ、真価が問われるのではないのでしょうか。そのためにも、県民の皆様「そのとき」に気づく努力をしていきたい。